

あまのはしだて れきし
天橋立の歴史についていろいろ調べました。すると、次のよう
なできごとがあったことを知りました。

◆守られてきた天橋立

【江戸時代】

あそ
阿蘇海（内海）で漁業ぎよぎょうをしている溝尻村みぞしりから、宮津藩はんのおとの様に「橋立切断」の
ねが
願いが出されました。

①外海から魚が入りにくくなり不漁ふりょうになってきた。

②船の底そこに砂すながあたり、人の行き来ができにくくなってきた。

として、天橋立をとちゅうから切り開くよう何度も申し出ました。

しかし、文珠もんじゆにある智恩寺ちおんじのおしょうさんは、天橋立は全国からたくさんのお
とずれているすばらしい場所であること、また、神様がおりてこられた大切な場所を
切断すれば不吉ふきつなことがおこるといって、天橋立を切断させませんでした。

【昭和の初め】

せんそう
戦争がはげしくなってきた1937（昭和12）年3月。大江山おおえ こうざんの土を精錬せいれん（注1）し
てできたニッケルを運ぶ大型船を工場（今の日本冶金工業株式会社 大江山製造所）
におおがた
に接岸せつがんさせるため、商工大臣が与謝郡いっげん や きんの町村長たちを集め、「天橋立を切れ」と要求せいぞう
し
てきました。

この計画を聞いた宮津の三井町長み いは、「天橋立は、天照大神あまてらすおおかみが鎮座ちんざ（注2）されたところ
であり、伊勢神宮い せ じんぐうのふるさとであります。また、切断の予定場所には、おそれ多く
も『お手植えの松』（注3）もごぞいます。どうしても切ることはできません。」とうっ
まつ
たえ、天橋立を守りました。

（注1）「精錬きんぞく」金属ふ じゆんぶつから不純物を取りのぞくこと。

（注2）「鎮座しんざ」神霊しんれいがある場所にしずまりとどまっていること。

（注3）「お手植えの松」昭和天皇てんのうが皇太子殿下こうたいしでんかのとき、天橋立に來られ植えられた松のこと。

調べてみよう

・校区のようすや歴史について、家族や地域ちいきの人にたずねたり、図書館しりょうや資料
で調べたりしてみましよう。新しい発見やおどろきに出あうかもしれません。